

TNR活動

ご覧頂きありがとうございます。今月担当の杉浦です。このコラムも3周目となりました。今回は社長の本野が趣味の山登りについて載せましたがみなさん読んで頂けましたか？まだという方はぜひ一つ前に戻って読んでみて下さい。

さて、今回何を書こうか悩んだ結果、自宅でも飼っている「猫」について書くことにしました。家の2匹の猫は家族みんなが猫かわいがりしている我が家のアイドルです。コロナ渦で家にいることが多かったときも家族の癒し的存在でした。

そんな猫についてですが皆さんは「TNR」という言葉をご存知でしょうか。

TNRとは	T r a p (トラップ)	→	捕獲
	N e u t e r (ニューター)	→	不妊手術
	R e t u r n (リターン)	→	戻す

つまり捕獲器を仕掛けて捕獲し、避妊・去勢手術を施した後、元いた場所に猫を戻します。こういった猫たちは「さくらねこ」と呼ばれています。手術の際に片耳をV字にカットされ、その形が桜の花びらに似ているからです。これは人の手によって一度保護され、不妊手術をしている猫であるという印であり、手術していない猫と区別する為です。この活動のことをTNRといい、各地でボランティアの方たちが行っています。戻された猫たちは地域の猫としてエサはもらえたとしても今まで通り飼い主のいない猫のままです。しかし、これ以上繁殖することはなく一代限りの命として生涯を終えます。

かかりつけの獣医さんが言っていました。「野良猫の寿命は長くて5年程で、飼い猫が10年から15年といわれているので半分以下の寿命なんです。それだけ外の世界は過酷なんです。」

今では野良犬は見かけなくなりましたが、野良猫はまだたくさんいます。どこかで「さくらねこ」を見かけたらこの話を思い出して、どうか温かい目で見守ってもらえたらと思います。

次回は部長の亀田がコラムを担当しますのでお楽しみに！！